

発達支援研究所ホームページ <https://smart-kids.co.jp/lab/>

### スマートキッズ プラス三郷第二

「星のように輝く教室になるように」そんなコンセプトをもとに作成しました。  
皆の好きなものを集めて、オリジナルキャラクターを考えました。

## 家庭・園・学校と児童発達支援・放課後等デイサービスの連携の実際

所員 村上浩将

スマートキッズでは、障害児通所支援として児童発達支援(児発)や放課後等デイサービス(放デイ)の教室を長らく運営しています。しかし、「私たちの教室だけで、子どもたちを十分に成長させることができる、力を伸ばすことができる」とは決して考えていません。子どもたちに対して適切なサポートと環境を提供するためには、家庭との連携、そして子どもたちの通う園や学校との連携が絶対に必要です。

たとえば、スマートキッズでコミュニケーションの練習をしている子どもはたくさんいますが、そのコミュニケーションスキルが本当に生かされるのは、園や学校で友達とやり取りをするときです。また、ご家庭で「おはようございます」「いただきます」とあいさつの練習をしているのであれば、スマートキッズでも同じようにあいさつができるよう、声かけを行います。

子どもたちは、平日1日のうちに家庭→園・学校→スマートキッズ→家庭と、さまざまな場所を行き来します。それぞれの場所で全く違う支援がされていたら、子どもはただ混乱するしかありません。極端な話、食事の際に家庭ではお箸を使う、学校ではフォークを使う、スマートキッズではスプーンを使うように言われたら、子どもはどうしていいかわからなくなります。そういったすれ違いを防ぐためにも、連携は欠かせないものです。

また、連携によって、よりポジティブな効果が生まれることもあります。

私が経験した事例の1つとして、学校からスマートキッズに、子どもが使っている「スケジュールカード」の共有をいただいたことがありました。その子は、今やっていること(好きな遊びや活動、おやつなど)に集中してしまうと、次の行動への切り替えが苦手なタイプでした。スマートキッズでも本人のためのスケジュールを自作したのですが、あまり関心が向かず、効果が薄い状態でした。しかし、学校のスケジュールカードと同じ形式のものに切り替えたところ、見慣れているものだったため本人自身が喜んで活用するようになり、スケジュールに沿った行動が一気に増えたのです。さらに、そのころから家庭でも「手洗い」「べんきょう」「ごはん」と、カードが手元になくとも自ら言葉にして、行動を切り替えられるようになったそうです。

この事例は、スマートキッズでも見慣れたカードが使えるという安心感と、それでうまくいった達成感や自信によって、子ども自身に意欲が生まれ、成長が促進されたのだろうと考えられます。このように、連携にはただ「混乱を防ぐ」だけではなく、「より本人の気持ちに寄り添い、支援効果を生む」といったポジティブな力があるのです。



さて、こうした意義のある連携を確実に行うため、児発や放デイでは相談支援専門員の作成する「障害児支援利用計画」を共有いただき、それをもとに支援を検討するのが基本です。場合によっては学校の作成する「個別の教育支援計画」、「個別指導計画」を見せていただくこともあります。スマートキッズでも、もちろん同様です。これらの書類は各機関がその子のためにどんな支援を行っているのか、そしてスマートキッズはその子のために何ができるのか、何を求められているのかが記載されている大切なものです。

また、児発・放デイとは異なる第3の障害児通所支援として、「保育所等訪問支援」という制度があります。これは未就学児から18才までを対象に、保育所、幼稚園、地域の小・中・高等学校等、子どもが日常通っている場所に訪問支援員が訪れ、子どもの集団生活をサポートしていくものです。スマートキッズでは、児発・放デイの教室の利用者が保育所等訪問支援を併用することが多いため、子どもをよく知る支援員が園や学校でのサポートも行うという形を取ることができています。例えば、

- ・スマートキッズで練習している「10秒深呼吸して切り替えよう」を、通っている園でも活用していただく
- ・学校でロッカーに登りたくなる子の支援として、スマートキッズでは棚の上にカレンダーやおもちゃがあるので登ろうとしない = 物が置いてあれば登らないで過ごせるのかもしれないという気づき
- ・逆に、園の先生の声かけで子どもが理解できた内容を、スマートキッズでも活用する

など、子どもの変化・成長につながる連携が多く報告されています。もちろん保育所等訪問支援の本来の目的は、子ども自身の園や学校での生活をより良くするための支援です。ただ、やはりその中でも「連携」は大きな意義をもつと考えています。

スマートキッズではここまでのような実践を踏まえ、今後もさまざまな機関との連携を引き続き大切にしていきます。しかし、何より大切なのはご家庭との連携です。前述のような素敵な家庭連携の事例をこれからも増やし、本人とご家族を支えるのが児発・放デイの重要な役割、つまりスマートキッズの役割だということをいつでも忘れずに、日々の支援に取り組んでいます。



#### <プロフィール>

村上 浩将（むらかみ こうすけ） 公認心理師・臨床心理士・学校心理士

学校や児童発達支援、放課後等デイサービスにて、さまざまな個性がある子どもたちと直接かかわってきました。そして教育・心理の専門家として、一人ひとりの居場所をどのようにつくっていくのか、安心して成長できる場とはどんなものなのかを考え、実践してきました。これからも「スモールステップ」でお子さまのもつスキルを伸ばし、いずれはお子さま自身が自分で居場所をつくっていけるように、保護者の皆さまと力を合わせた支援を提供していければと思っております。よろしくお願いいたします。